

「地域学校協働活動推進員等研修」

日時: 令和元年6月6日(木) 会場: 青森県総合社会教育センター 受講者数: 110名
日時: 令和元年6月7日(金) 会場: 七戸中央公民館 受講者数: 54名

本研修会は、「地域学校協働活動」を推進するために、地域学校協働活動推進員等の資質向上と情報交換・情報共有の機会として開催しており、各種コーディネーターや関係者が、つがる会場と南部会場の県内2地区に分かれ、それぞれ同じテーマで研修するものです。今回は、NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク事務局長井上 尚子 氏を講師にお迎えし、「放課後の子どもの育ちを支えることとは」と題して、講義・演習をしていただきました。同じテーマとはいえ実状は地域によって異なることから、講義や演習の構成を受講者の実態に即して組み換えるなど臨機応援に対応していただき、より当事者意識を強く持って学ぶことができました。

1 講義 「放課後の子どもの育ちを支えることとは」

【講師：井上 尚子 氏】

講義では、地域学校協働活動のねらいや意義、その活動を支える役割を担うコーディネーターの役割についてお話いただきました。井上氏は、PTA活動をきっかけに、現在も文部科学省コミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）をお務めされながら、自ら地域の小学校でコーディネーターとして子どもたちの活動を実践されており、その経験を踏まえたお話しは、地域学校協働活動推進の重要性や価値について改めて考えさせられるものでした。



(1) なぜ、地域と学校が協働して子どもたちを育てていくのか

- ・急速な社会の変化
- ・AI、ICTによる職業の変化

今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性がある。

- ・新たな力を育てる教師力
- ・チームとしての学校の在り方（チーム学校）

(2) 次の教育課程の方向性

- ・社会に開かれた教育課程

変化の中に生きる社会的存在として力を付ける。

- ・学習指導要領改訂の基本的な方向性

人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。

- ・体験を取り入れた教育活動の必要性

教室が「リアルな世の中」と直結する。外部人材が使命感や誇りをもっている「本物の姿」に接する。

(3) 「非認知的能力」と「認知的能力」

- ・非認知的能力…子どもの自発的なチャレンジ体験・経験の積み重ね
- ・認知的能力 …数がわかる、字が読めるなどの測れる力

体験や経験から身に付く『非認知能力』は、学校だけで身に付けることは難しい。だからこそ、放課後活動や土曜日に地域の人たちの力を借りながら子どもたちの『非認知的能力』を育むことが大切である。

【つがる会場の様子】



(4) 地域学校協働活動を推進する

【南部会場の様子】

- ・キーワードは「連携・協働」へ

今までは各活動を個別に学校への一方的な支援を行ってきたが、地域学校協働活動は、**地域が一方的に支援するのではなく、地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働して子どもたちの学びや成長を支えることである。**

- ・学校をめぐる様々な課題…教員の多忙化・業務改善等

「地域学校協働活動を取り入れると更に忙しくなるのでは…」と、抵抗や不安を持っている先生方。

→本質の課題は、何のために連携・協働するのか。

- ・地域学校協働活動による効果

子どもたちのコミュニケーション能力の向上、学力の向上、学校の授業や生活指導の質的向上、地域の活性化。

→学校・教員にとって大きなプラスになる。

- ・地域学校協働活動は誰のためにするのか

学校管理下活動の学校教育も地域管理下の社会教育も、ともに子どもを育てる大事な教育であり、**地域学校協働活動は、子どもたちの成長のため**に行われるものである。



2 演習「様々なケーススタディーをグループワークで話し合う」

演習では、3つの事例について受講者同士話し合い、意見をまとめ、発表するグループワークを行いました。井上氏からは、どうしてそのような行動を取ってしまうのか子どもの気持ちを理解してあげることの大切さや、子どもたちの情報を学校と共有することで円滑な子育てにつながること等アドバイスいただきました。

- ・ケース①「活動に取り組もうとしない子どもへの対応の仕方」

受講者の意見→その子の思いを受け止め、行動を見守る。常に寄り添う形で接する。

どうしてそのような行動を取ってしまったのかを振り返らせる。

- ・ケース②「子ども同士がもめている時の対応の仕方」

受講者の意見→事情を聞いた後、子どもたちと一緒に解決方法を考える。

スタッフ同士で子どものトラブル対応の仕方について共通理解しておく。

- ・ケース③「受講者の悩み（アレルギー対応・特別な支援を要する子への対応）」

受講者の意見→その子がどんな活動なら参加できるのかを整理し、できる範囲で内容をすり合わせる。

その子が持っている特性を、スタッフ全員が共通理解して対応する。

3 受講者の感想

- ・これからの世の中の動きや新学習指導要領の方向性、地域学校協働活動をどう進めていけばよいのか、とてもよく分かりました。グループワークで様々な立場の方々の意見を直接聞くことができ、とても充実した研修会になりました。
- ・地域や学校との連携の難しさを感じていたけれど、共に子どもたちの育ちを応援しているという気持ちを持ち、学校との普段のコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。
- ・私たちの仕事は、「子どもの教育に携わっているのだ。」という意識を強く持ちました。学校、地域、放課後活動が連携し、共通理解をすることが大切だと思いました。子どもたちの幸せを願う気持ちが益々強くなりました。